

第 20 火を使用する設備に付属する煙突（条例第 17 条の 2）

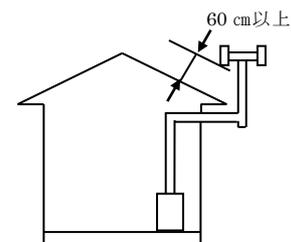
1 用語の定義

建築基準法上では、煙突は、燃焼器具等に接続して設けられた排気筒のことを示し、室内を経由することなく燃焼器具から直接屋外へ排出できるものをいい、排気筒は、排出された室内の排ガスを室内の空気とともに排出するものをいうが、本条では、排気筒の区分はなく、全て煙突の取り扱いとなるものであること。

2 条例等の運用

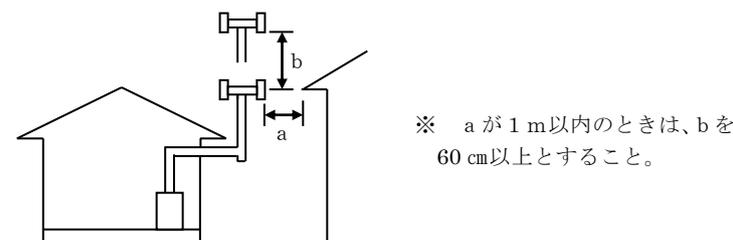
条例によるほか、その取り扱い及び運用については、次によること。

- (1) 建築基準法施行令（以下この項において施行令という。）第 115 条第 1 項第 1 号に規定する「屋根面からの垂直距離」は、第 20-1 図によること。



第 20-1 図

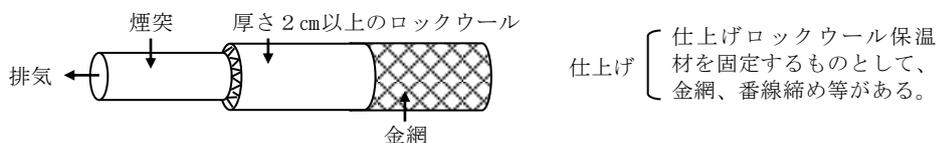
- (2) 施行令第 115 条第 1 項第 2 号の規定は、第 20-2 図によること。



第 20-2 図

- (3) 施行令第 115 条第 1 項第 3 号イ (2) 及び建築基準法施行令第 115 条第 1 項第 1 号から第 3 号までの規定を適用しないことにつき防火上支障がない煙突の基準定める件（昭和 56 年建設省告示第 1098 号（以下この項において告示という。））第 2 に定める煙突と不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物等の部分との離隔距離及び断熱施工の例は、第 20-1 表及び第 20-3 図によること。

(断熱施工例) ロックウール保温材 JIS A 9504（人造鉱物繊維保温材）



第 20-3 図 隠ぺい部での断熱施工の例（排気温度が 260℃以下の場合）

第 20-1 表

		施行令第 115 条第 1 項第 3 イ	告示 1098 号第 2	
排気温度		260℃を超える場合	260℃以下の場合	
		排気筒・排気管	排気筒・排気管	給排気管
空 間 部	断熱施工なし			
	断熱施工をした場合			
貫 通 部	・周囲 150 以上の空間		・周囲排気筒の 1/2 以上の空間	・給排気管
	・100 以上の金属以外の不燃材料のめがね石		・2 以上の金属以外の不燃材料で巻いた場合	・給排気管トップ（BF 式）
	・鉄板製めがね板		・鉄板製めがね板	・給排気管トップ（FF 式）
	・鉄板製ガラリ等		・鉄板製ガラリ等	

（単位：mm）

排気温度	260℃を超える場合		260℃以下の場合	
	排気筒・排気管		排気筒・排気管	給排気管
隠へい空間部				
隠へい貫通	<ul style="list-style-type: none"> 100 以上の金属以外の不燃材料のめがね石 		<ul style="list-style-type: none"> 2 以上の金属以外の不燃材料で巻いた場合 	
			<ul style="list-style-type: none"> 給排気管 	

（単位：mm）

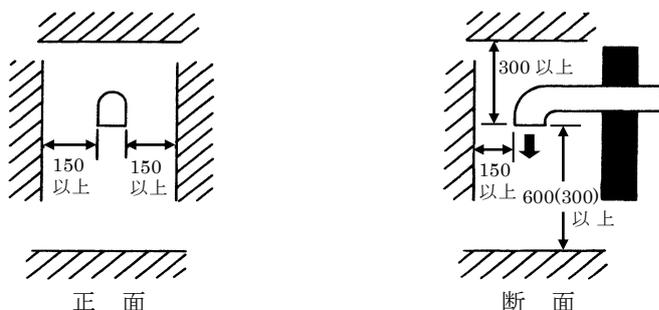
(4) 告示第 1098 号第 1 第 1 号 3 に規定する煙突の排気吹出し口周囲の離隔距離は、第 20-2 表及び第 20-3 図によること。

第 20-2 表 煙突の排気吹出し口周囲の離隔距離（mm 以上）

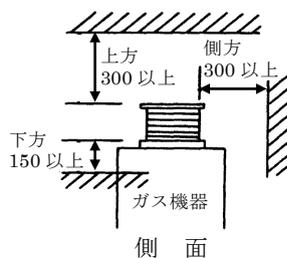
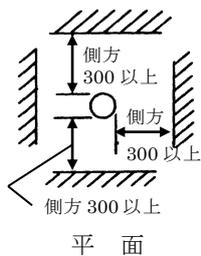
吹出し方向	離隔距離			
	上方	側方	下方	前方
下向き 1 方向	300	150	600(300)	150
水平面全周	300	300	150	300
鉛直面全周	600(300)	150	150	150
斜め全周	600(300)	150	150	300
斜め下向き	300	150	300	300
水平 1 方向	300	150	150	600(300)

備考 () 内は、防熱板及び不燃材料で有効に仕上げをした建築物の部分からの離隔距離を示す。

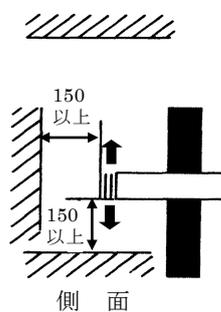
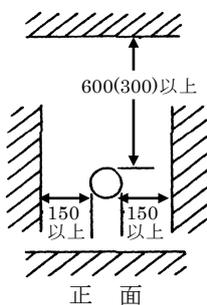
① 下向き 1 方向吹出し



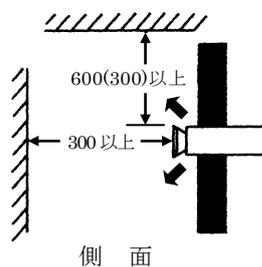
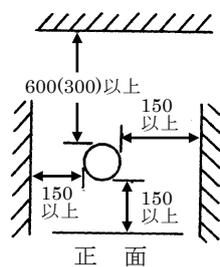
② 水平面全周吹出し



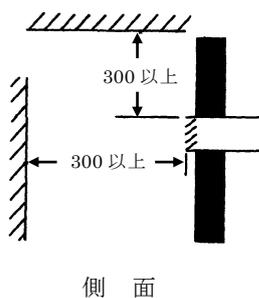
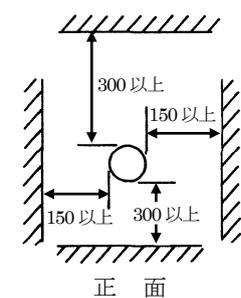
③ 鉛直面全周吹出し



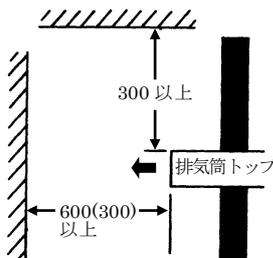
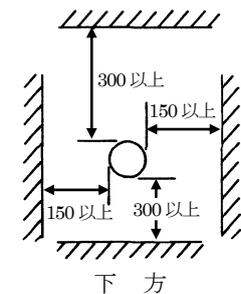
④ 斜め全周吹出し



⑤ 斜め下向き吹出し



⑥ 水平1方向吹出し



備考 ④、⑤のトップのように取付壁面との距離が 150 mm未滿となっているものは、公的検査機関による温度上昇試験を行い、その安全性が確認されたものである。